

2020年7月31日（金）

国立情報学研究所 第13回 「4月からの大学等遠隔授業に関する取り組み状況共有サイバーシンポジウム」

# 東北大学における「全学オンライン授業アンケート（教員向け）」

高度教養教育・学生支援機構  
教育評価分析センター（CIR）

© Takeshi KUSHIMOTO  
CIR @ Tohoku Univ.

# 調査のねらいと概要

## ねらい

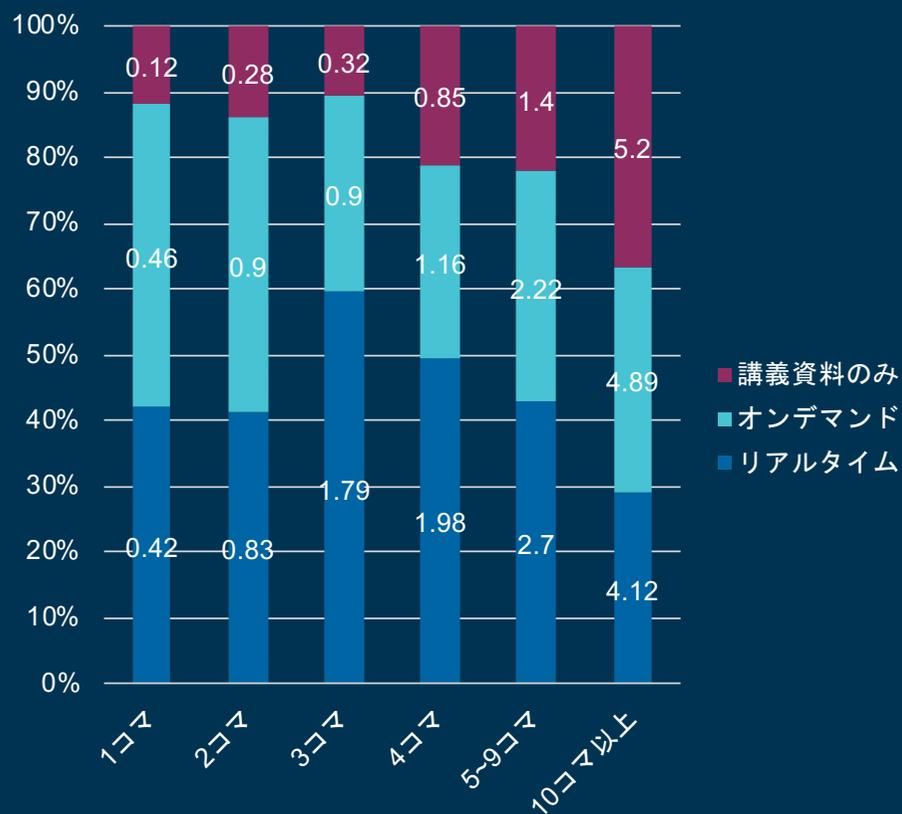
- 1) オンライン授業下での教育状況を把握する
- 2) 教育の充実度と今後の希望の規定要因を明らかにする
- 3) 学生調査の結果と比較検討する

本日は1)を中心に報告する

## 概要

- 実施期間：2020年6月11日～25日
- 調査方法：Google Form
- 質問項目：下記21項目
  - 1-1～10 担当コマ数と投下時間
  - 2～3 生活状況（会話時間, ストレス）
  - 4～6 ICT適性（関心, 技術）
  - 7～9 教育の充実度と今後の希望
  - 10～12 授業・運営体制に関する自由記述
- 回答総数：1,023（うち教員回答数：966）

# 教育状況1：担当コマ数による授業形態の違い

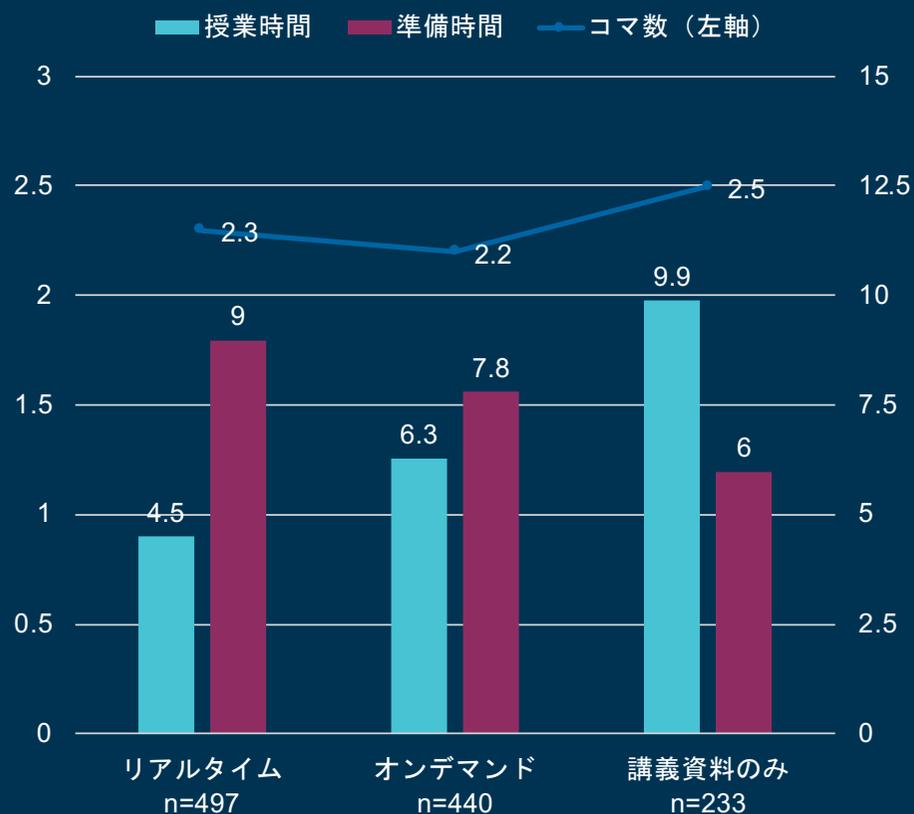


- 授業担当者：n=785, 教員の81%
- 授業担当者の平均担当コマ数：3.4
- 担当コマ数の分布は下表の通り

	1	2	3	4	5~	10~
n	211	185	107	116	130	36
%	21.8	19.2	11.1	12.0	13.5	3.7

- 1~2コマ担当者は同傾向
- 4コマ以上になると講義資料のみが増加
- 10コマ以上だとリアルタイムは3割弱

## 教育状況2：授業形態による違い

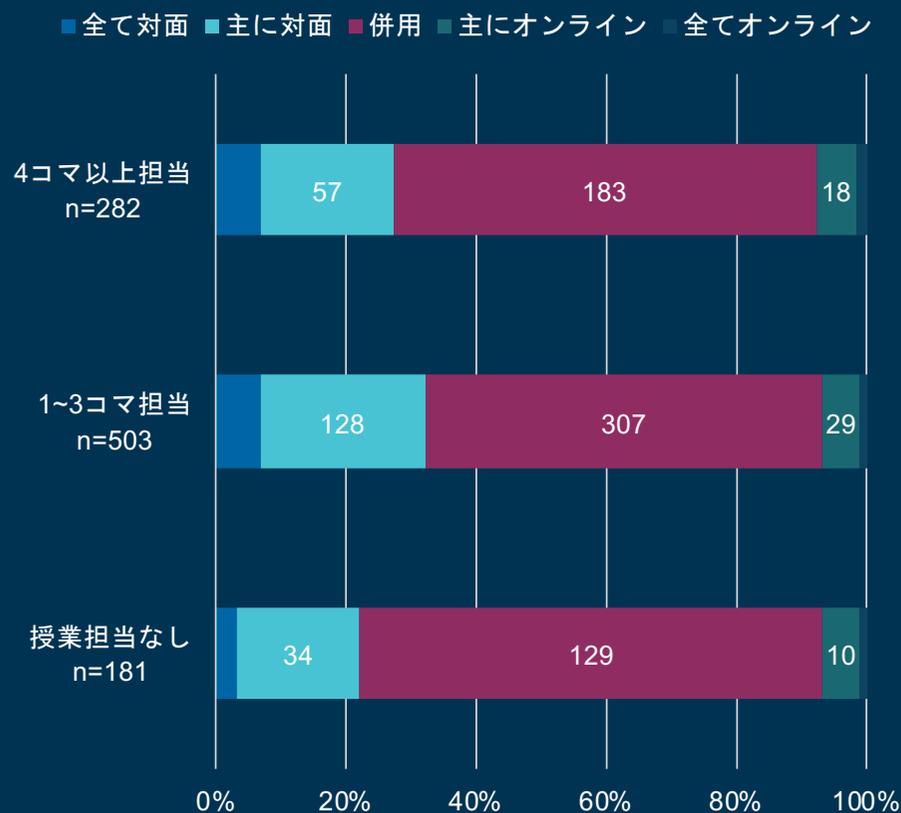


- 値は当該形態担当者の平均値
- 授業時間：オンデマンドは録画時間、講義資料のみは資料を作成する時間
- 1コマあたりの投下時間は下表の通り

	リアルタイム	オンデマンド	講義資料のみ
授業時間	2.0	2.9	4.0
準備時間	3.9	3.6	2.4
合計	5.9	6.5	6.4

- 授業形態により投下時間のバランスは異なるが、合計時間には大差はない

# 今後東北大学の授業は、どうなることを希望するか



- 全体の64.1%は「併用」（授業形態によって変える）を選択
- 従前がほぼ「全て対面」だったことを考慮すると、オンライン授業のメリットを感じているとも言える
- ちなみに「今般のオンライン授業の実施は、教育の仕方を考える良い機会」と言えるかを問うたところ、全体の78%が肯定的回答（5段階で4以上）
- コマ数が少ない授業担当者の方が、対面への憧憬が強い？

## 知見のまとめと課題

- 授業コマ数が多い教員ほど、講義資料型の授業形態を採る傾向にある
  - 職位別では非常勤講師の平均担当コマ数が多く、オンデマンド型を上回る
  - 教室配備の授業収録システムにおける配信タイムラグを改善する必要
- 授業準備の時間は、従来よりも減少しており負担の軽減につながっている？
  - 2020年1月実施の教員調査（n=628）では、平均で1コマあたり5.1時間
  - ただし、調査期間や「授業準備」の定義が異なるため正確な比較は困難
- オンライン授業の拡大については、学生よりも教員の方が慎重に考えている
  - 学生調査（n=4063）では、「併用」は48.5%で積極的的回答が22.4%
  - 併用の具体像として、同一科目多クラス開講における講義の共通化に期待